

## ジャパン・エキスポ出展報告 ークリアパリブースに石川県・沖縄県が参加、震災支援もー

パリ事務所

2011 年6月 30 日(木)から7月3日(日)までの4日間、パリ近郊ノール・ヴィルパント展示会場にて、「第 12 回ジャパン・エキスポ」が開催されました。

ジャパン・エキスポとは、マンガ・アニメ・ゲームを中心とした日本のポップカルチャーと、書道や武道、折り紙など日本の伝統文化を合せた日本文化を紹介するイベントです。毎年フランス国内をはじめ近隣のヨーロッパ諸国からも多くの来場者が訪れ、ヨーロッパ最大規模の日本文化の祭典と言われています。

第 12 回目を数える今年は、600 もの団体が出展し、主催者の発表によると当初予想の 19 万人を大きく上回る来場者を記録しました。

パリ事務所では、昨年に引き続きブースを出展し、日本の地方の魅力をPRしました。

今年の出展に当たっては、従来のパンフレット配布に加え、クリアブースに直接参加を希望する自治体を募った結果、石川県と沖縄県の2自治体に参加いただきました。

また、東日本大震災の復興に向けて実際に参加してもらうことをコンセプトに企画を考え、メッセージカードの記入や募金活動を行いました。

### 1 直接参加する自治体への支援及びパリ事務所によるPR活動

石川県、沖縄県両県とも、数種類のPRパンフレットやグッズ等を配布した他、ポスターを掲示しPRビデオを上映するなど、来場者に対し積極的に自治体のPRを行いました。

ブースでは、直接来場者と接することによりそれぞれの自治体の認知度を肌で感じ取ることが出来たとのこと。フランス人は、日本国内の定番の観光地以外に、自分たちが独自に訪れる場所を開拓したいという意識が強い、また、自県の認知度が意外に高いことが分かったなどの感想を持ったとのことでした。

また、パリ事務所では、21 自治体のパンフレット及びグッズを配布するとともに、日本で活躍するJETを活用した日本の安全情報の発信を行いました。

ジャパン・エキスポに向けて、大震災の発生により観光客が減っている中で来場者が求めている情報は何か、どのような情報提供方法がより効果的かについて学ぶため、JNTOパリ事務所の協力を得て職員の勉強会を事前に行うなどし、パリ事務所職員の知識の向上を図りました。

来場者からは、日本を観光する場合の安全性や物価の高さについての質問もありました。しかし、チェルノブイリの原発事故を直接経験していない若い世代からは、不安よりも日本に行ってみたいという意欲がより強く伝わってきました。



クレアパリブースの様子



石川県の大西さん（右）の説明に聞き入る来場者

## 2 東日本大震災の復興支援の取組み

ジャパン・エキスポの来場者の約 7 割が 25 歳以下の若者であるということもあり、若い来場者の共感を呼び自発的に協力してもらえるよう、被災地の子どもたちに対する支援に的をしぼり、次の取組みを行いました。

- ① 被災した子どもたちに向けて、来場者にメッセージカードを記入してもらおう（ユネスコ「絆・メッセージ・フロム・ザ・ワールド」キャンペーン）
- ② 震災遺児支援のための募金活動の実施（あしなが育英会を通じた募金活動）
- ③ 岩手県達増知事によるメッセージの掲示（「いわての学び希望基金」の紹介等）
- ④ ニュースレターの配布（「がんばろう！ 仙台」「がんばろう 福島」）

中でも、岩手県については、直前にパリで開催されたユネスコの世界遺産委員会で平泉の文化遺産が世界遺産に登録されたばかりという話題性もあり、委員会出席のために訪仏された達増知事から直接来場者に向けたメッセージにサインをいただいたものを、ブースに掲示しました。

ブースでは、日本に対する支援を出来ることから始めたいという思いでメッセージカードを記入する来場者が多く、事前に準備していたカードが最終日を待たずしてなくなってしまふほどでした。



カードに記入する子どもたち



集まったカード



ブースに掲示したメッセージ



会場の様子

### 3 ブース出展の効果

期間中、ブースを訪れた来場者から寄せられたメッセージカードは、ユネスコ本部から仙台市ユネスコ協会に送られ日本語訳をした後で一枚一枚被災地の子どもに届けられます。

また、集まった募金についてはあしなが育英会に送付する予定です。

今回のジャパン・エキスポでは、来場者一人一人に出来るだけ説明や対話を行うよう心がけました。訪日旅行を計画している人たちをはじめとして、来場者のブース滞在時間が長かったと言えます。自治体のパンフレットを手にとってじっくりと読み、また、メッセージやイラストをいろいろ工夫し考えながらカードに書き込む姿が印象に残っています。

現在、フランスでは、ポップカルチャーは若者が日本に親しみを感じ日本に引きつけられる重要なチャンネルになっており、今回のPR活動をきっかけに、彼らの日本に対する興味がより深まり日本訪問につながっていくことを期待したいと思います。

(小林所長補佐 東京都派遣)